

中3国語 出題のねらいと対策

一 漢字の読み書き 70.0%

ねらい：漢字を正確に読み、書けるようにする。

分析と対策：「滞る」は送り仮名も覚えておきましょう。「弾」は「はず(む)」と「ひ(く)」の訓読みがあります。「装丁」を「そうちょう」と読まないようにしましょう。また、漢字の書きは同訓異字、同音異義語に注意しましょう。

二 文学的文章読解 41.4%

ねらい：他の登場人物との関係から、主人公の心情や考えが変化していく様子を読み取る。

分析と対策：私立の進学校を成績不振で退学し、公立中学に通うようになった「ぼく」。クラスの佐野さんにそのことを知られ弱みを握られますが、彼女の家は生活保護家庭でした。「ぼく」は彼女のことは理解できず、自分には自分の悩みがあると、なかなかわかりあえません。問2では、彼女のことが理解できない「ぼく」の思いを読み取ります。私立中時代のクラスメイト桜田くんと出会ったときの「ぼく」の様子が問3,4で問われます。「無邪気」な桜田くんを「ぼく」は受け入れられず、逆に「うらめしく」思いますが、それも自分が悪いのだと辛くなります。そのとき、桜田くんと「ぼく」の関係は、「ぼく」と佐野さんの関係なのだ気づきます。問5は桜田くんを拒否する「ぼく」の心情が問われ、問6では佐野さんにとっての「ぼく」の存在の意味を問います。

三 説明的文章読解 51.0%

ねらい：ニセガネ作りの話から、紙切れでもホンモノのおカネになるとはどういうことかを述べた文章。筆者の伝えようとしていることを理解する。

分析と対策：ホンモノの金銀を用いてニセガネを作ると罪になりますが、実際には紙のおカネでもホンモノのおカネとして流通しています。そのおカネについての説明が、問2,3,5で問われています。筆者は「預り手形」のような、本来はホンモノのおカネの代わりがホンモノのおカネとして用いられることを「逆説」と表現し、その内容が問4で問われます。問6は「ニセガネ作りたち」についての問題です。「ニセガネ作りたち」の作ったおカネは「ホンモノの金銀から出来ている」のに「ニセガネ」です。筆者が「かれらはホンモノの形而上学の哀れな犠牲者」と表現していることに着目し、その意味を理解しましょう。

四 古文読解 43.1%

ねらい：鎌倉時代の説話「十訓抄」からの出題。啓蒙書らしい内容を理解する。

分析と対策：問5の生徒の会話の中の「笑みの中の剣」は人が隠したい、恥ずかしいと思うことを人に話したことへの、顔に出さない相手の怒りを表していることに気づきましょう。

五 作文 35.0%

ねらい：支持する意見を参考を書く。

分析と対策：自分が賛同する意見を参考にしながら意見を書きましょう。

全体の平均点は 48.5点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。